



No28 すべての子どもの学びと育ちを保障する特別支援教育

— 第2回 教育講演会の講話より (3) —

No26, 27に続き、岡山大学の佐藤暁先生と共に行った「すべての子どもの学びを保障する」ための勉強会の内容をご紹介します。

前は、「書き出し」という手法を活用した事例についてお伝えしましたが、今回は、学校全体で取り組むと効果のある「授業公開」についてご紹介します。

これまでの「授業公開」は教師の立場で授業検討がなされていましたが、視点を変えて、子どもの学びと育ちを見る「授業公開」も必要なのではないでしょうか。



担任が気づけなかったことまで他の先生が見ていてくれるので、
授業公開した先生は、「やってよかった！」と思えます

—「子どもがこの教科(単元)をどう学んだか」という授業公開—

- ・ 教師の発問がどうだったか、組み立てがどうだったかということではなく、一人ひとりの子どもが1時間の中でどんな学びがあったかを見ます。
- ・ 参観する先生は、授業の先生より大変です。・・・(一人ひとりがどうだったかを見なくてはならない。
→参観する先生方で分担することも一つの方法)
- ・ 1年間で全クラスの公開が出来るとよいです。・・・(すべてのクラスで、すべての子どもたちがどんな学びをしていたかを見る。→先生の負担を考えると、指導案は略案にするのも一つの方法)
- ・ 授業公開の目的は、参加した教師が全員で子どもの「困り感」に気づくこと。そして、子どもの学びと育ちを確認すること。(子どもも先生も、ちょっと頑張っていることに気づいてもらい後押ししてもらえとうれしいのです。)
- ・ 授業研究は、子どもの話をします。現場の先生方は、たくさんの手立てをもっています。例えば、座れずにいた子がいたらどうしたらいいか、みんなで手立てを出し合うことができます。
- ・ 「あの子随分変わったね」など、同僚同士で安心して子どものことを語れる仲間意識が作れます。

私達が「教師」という仕事を続けていられるのは、子どもが成長する姿が見られるからなのではないでしょうか。担任一人では気づかないつまずきや成長も、上記のような「授業公開」を多く行うことで、自分だけではなく自校の先生方(同僚)みんなで育てていくんだと思えたり、また、成長した姿をみんなで感動できたりしたら、とても素敵な学校になるのではないかと思います。

<受講者の感想>

- ・ 「子どもの学びと育ちを見る授業公開」というお話が印象に残りました。どうしても私達は教師がどんな授業をするかに目が向いてしまいがちですが、授業は子どものためのものであり、一人ひとりの子がその時間に何を学んだのかが大切だということを実感しました。(小学校教諭)
- ・ 理解の得られにくい保護者の対応として、「相手のすてきなところを見つける努力をする」「まずは保護者が心を開くように話を聞くこと」「保護者自身の人生に寄り添うこと」など、とても参考になり、本当にその通りだなあと感じました。(小学校教諭)

